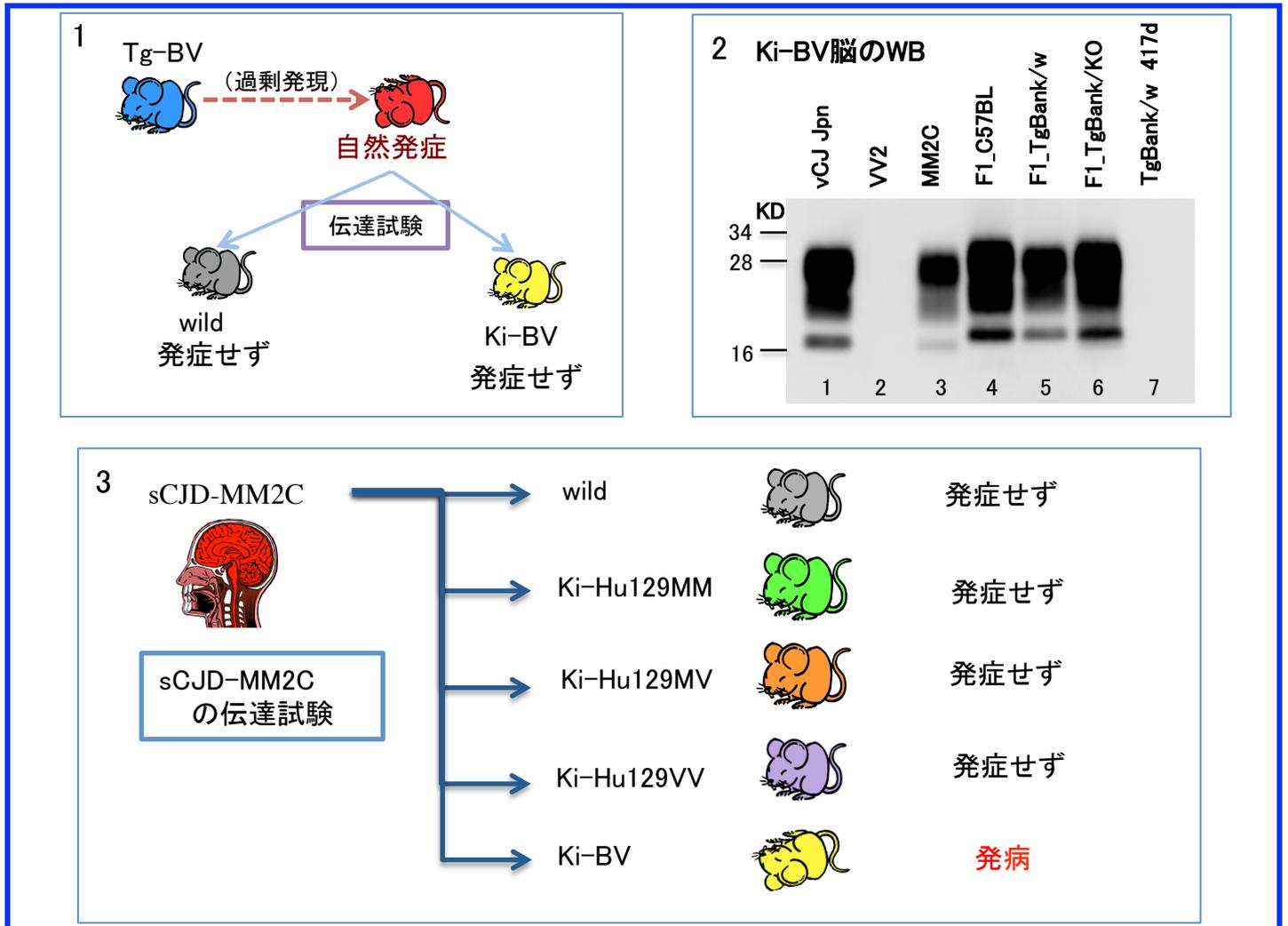


# 新たなモデルマウス (Ki-BV) により孤発性CJD-MM2 Cortical form が伝達出来た

研究分担者: 動物衛生研究所プリオン病研究センター 毛利資郎



## 解説

伝達性海綿状脳症に広い感受性を有することが知られているbank vole (*Myodes glareolus*)のプリオンたんぱく質遺伝子を発するトランスジェニック(Tg-BV)マウスとノックイン(Ki-BV)マウスを作成し、CJDの接種を行った。

1. 過剰発現系Tg-BVマウスは400~500日で自然発症し、脳に異常プリオンたんぱく質の蓄積PrPを認めた。しかし、継代接種では野生型マウスにも同じ遺伝子の自然発現系のKi-BVにも伝達性が認められなかった。Tg-BVに蓄積する異常プリオンたんぱく質はpK感受性であった(2、レーン7)
2. Ki-BVへの伝達試験の結果vCJD、MM2C、CJDF1株が伝達出来た、しかし、VV2は伝達出来なかった。
3. これまで野生型マウス、およびヒト型遺伝子改変マウスへ伝達出来なかった孤発性CJD-MM2 Cortical form (MM2C)がこの遺伝子改変マウスにより、初めて伝達可能となった。